

北 どりくろあ

第81号 2022年12月1日（毎月1日発行）

芸備線ストロール⑬ 矢神駅 やがみ

「神代川の低い鉄橋と こつじろ イチヨウの黄金の絨毯」

イチヨウの黄金の絨毯

今回は、野馳駅から矢神駅、岡山県下での移動である。11月14日(月)、午前7時半頃、車で庄原市街の自宅を出た。芸備線沿いの国道を走ると、遠景の山々が斑に黄葉している。杉や檜の常緑針葉樹が広範囲に植林されていることが伺われる。

8時40分ぐらいに野馳駅に着。いつもは、乗車前に料金を用

意しておくのだが、小銭を補充しておくのを忘れたので窓口で切符を購入。地元の妹尾タクシーが窓口業務を委託されているのでありがたい。隣の矢神駅まで運賃は190円。9時発の新見駅行きに乗車。先月、東城駅7時半発の列車に乗って野馳駅で降車したときは、新見高校の生徒がたく

さん乗り込んで来たのだが、通学時間帯ではないので今回はわたしひとりだけ。車内の乗客も一人だった。ちなみにこの9時発の便は土日は運行していない。

田園地帯を5分ほど走って矢神駅に到着。先月号に、野馳村と矢神村が合併して哲西町ができたと書いたが、矢神村は矢田と上神代という集落が合併して、それぞれの一字を取って村名とした。

この駅には上りと下りのホームや線路がまだ残っている。岡山県内の芸備線におい

て、列車の行き違いが可能な駅は矢神駅だけである。

上り（新見駅行き）ホームに降りると、プレハブ式の待合室がある。ホームを野馳駅方面に歩くと、御衣黄桜の木がある。解説板によると、オシマザクラ系のサトザクラで、中国地方に2〜3本しかない珍しい桜だという。「花は緑色と黄色の部分がまじって、黄緑色の花卉の中心に白い線が入り、満開になるとしたがって紅色の線が現れま

す」、開花時期は4月中旬から5月上旬、今は葉を落とした裸木があるだけだ。

駅舎は、構内の踏切を渡って下りホームの背後に建っている。野馳駅でもそうだったが、改札口の鉄柵がそのまま残っている。半円状に湾曲した鉄柵の中で、カチカチと切符鉢を打ち鳴らしながら駅員が切符をチェックしていた光景を思い出した。今は無人駅だ。

待合室のベンチに腰かけて、持参した牛乳パンと缶コーヒーで朝食。待合室は野馳駅と同じ作りだが、事務室の部分が取り壊されて、壁がベニヤの合板で覆われている。

駅舎は半分になってしまったが、昭和5年開業当初の建



神代川にはカルガモの群れが悠然と泳いでいた。

物が残っている。駅のシンボルツリーである柊（ひいらぎ）が、白い小さな花を咲かせていた。

壁板や柱、屋根瓦がくすんだ紅色をしているのは、ベンガラを塗装しているのだと思われる。ベンガラとは、銅鉱の副産物である酸化第二鉄を主成分とする赤色顔料で、高梁市の吹屋地区が生産地として有名だ。ベンガラ塗りの赤い家並みや鉱山跡の坑道見学が人気で、「ベンガラのまち」として多くの観光客を集めている。

駅前には、「鯉が窪湿原案内図」の大きな看板が立っている。「鯉が窪湿原まで約5km 徒歩約1時間 車約10分」の文字。これならどうにか歩け



そうだ。鯉が窪湿原の最寄り駅はやはり矢神駅なのである。

駅前の市道（旧国道）を新見方面に歩くと、左手に神代川が流れている。小さな鉄橋を見つけて川の沿道に降りてみた。「第3神代川B」と白いペンキで書いてある。BはブリッジのBだろう。手を伸ばせば、鉄橋の底の橋げたに触れることができる。

道後山駅のレポートのときに、小島原第一橋梁が中国地方では一番高い鉄橋であると書いた。その反対に、この神代川第三鉄橋が中国地方では一番低い鉄橋なのではないか……、小さな発見である。

駅前通りの市道を東城方面に歩くと、ぽつりぽつりと商店だった建物



が散見できる。とりわけレトロな二階建ての木造家屋（写真上）を見つけた。看板を探したが、それらしきものは見当たらない。窓から中を覗くと、奥が高さ1メートルぐらいの板壁で仕切られていて、その上にガラス戸が嵌め込まれている。

ガラス戸にはスライド式の小窓があつて、西部劇に出てくる銀行の窓口を連想した。小窓の脇に貼られたシールに、民営化前の郵便局のクローバーマークを見つけて、ようやく郵便局だったのだと推測。このまま朽ちてしまうには惜しい建物だ。

市道から山側へ登る道が延びていて、黄葉に誘われて寄り道した。高台にある墓所に出た。一つの墓石に目が止まった。板状の御影石に「空」の一字だけが刻まれている。かなり広い敷地にその墓石が一つあるだけだ。墓じまいをしたあとに、その墓石を立てたのではないか。色即是空、この世のものはずべて実体はなく空である。空という文字が、今でも心に残っている。

市道をさらに進むと、獅子山八幡宮がある。鳥居の向こうにあるイチョウが黄金の葉を散らしている（写真下）。解説板によると、樹高約35メートル、根回り7・5メートルの太木で、善江院前のイチョウと夫婦だと言ひ伝えら

れている。雄木だけなので、銀杏の実は落ちていない。

ふかふかの黄金の絨毯を踏みしめて、参道の石段を登った。獅子山八幡宮は伊勢国熊滝八幡宮から御分霊を勧請し、矢田福生庄に一時祀ったが、同地が狭隘なので、現在地に社殿を造営し奉遷したと伝えられる。古くは矢田村、田淵村、南北村、仲間村の氏神だったそうだが、現在は哲西町大字矢田の氏神である。

周囲の樹木が管理されているので、明るい雰囲気だ。世界平和とコロナ禍退散を祈願。拝殿の横にある社務所でおみくじを置いていたので引いてみた。運勢は「吉」とままず。商売あせらず時をまて」の御託宣に深く頷いた。

市道をさらに進むと国道182号線に出て、道路を渡ったところが道の駅鯉が窪、矢神駅から徒歩で20分余りの距離。トイレに入ってから、自販機のコーヒーで休憩。それから車を停めた野馳駅まで歩いたのだが、先月はあれほど目立っていたセイタカアワダチソウの黄色い花が今は枯れて、ススキの白い穂波が揺れている。

野馳駅から車で道の駅に引き返してレストランで昼食、「焼きたてこめ粉パンの店こめ工房」のマロンデニッシュでデザート&コーヒー。隣接する哲西図書館で、読みたかった漫画本を10冊借りた。東城に通動していた頃のことを思い出した。

（次は市岡駅の予定です。）



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「春や春」

森谷明子 著 光文社

女子高に通う俳句好きの生徒が、俳句に否定的な国語教師に反発、「俳句甲子園」を目指して俳句同好会を立ち上げる。俳句は素人だが、音楽や書道等の優れた才能を持つ仲間たちが集結するストーリーは、「七人の侍」を連想する。そうしたメンバーの個性が、全国大会の舞台上で存分に発揮されるのだ。



正岡子規による現代俳句の生い立ちや季語のない自由律俳句、桑原武夫の「俳句第二芸術論」などの俳句の歴史もしっかり解説されている。俳句の入門書としても優秀、そして、句作による「バトル」がエキサイティングで面白いのだ。淡い恋心が下味の青春物語でもある。

「エースのダイヤモンド」

マーク・ショア 著 ハヤカワ・ミステリ文庫

レッド・ダイヤモンドシリーズの第2弾。最初のシーンは、精神科医によるカウンセリング。自分がハードボイルドの探偵だと思い込んでいるさえない中年のタクシー運転手が、精神科医の追及を軽妙なジョークで切り返してゆく。まるで、精神科医の方が病んでいるかのように思えてくる。



この自称アメリカン・ヒーローが、ラスベガスのカジノ王の依頼で、放火屋、殺し屋、売春婦、ペテン師が横行する街に乗り込んで捜査を開始。タフネスぶりを発揮するが、現実と妄想のはざまに錯綜した言動は、さらなる事件や混乱を巻き起こす。B級映画のような魅力が満載！

「たまらなく日本人」

柳沢正 著 講談社

「ツアコンは見た、おかしくも愛すべき人たち」のサブタイトル。本誌の山崎允さんの連載でおなじみの海外ツアーコンダクターだが、いろいろな日本人が登場する。一日に財布を三度すられた爺さんや、着替えが入った鞆が届く前にシャワーを浴びてしまい、様子見でホテルの廊下に出て、裸で締め出されたおばさん等々。



「ウサギ小屋から飛び出したウサギを思わせる」と著者の舌鋒は容赦がない。外の景色におっかなびっくり、不安になったり感動したり。やがて自分の巣に逃げ帰る。一匹狼として、フリーで旅行会社の添乗員をしてきた人物の体験談は、冷徹な日本人批評でもある。

「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

江戸時代、子供たちは「読み」「書き」「算盤」を寺小屋で学んでいました。素読で「論語」「和歌」「俳句」「物語」等を何度も復唱することで身につけていました。繰り返して学習することで、基礎力が上がっていきます。子ども一人ひとりに合った学習内容を進めていくことが大切です。小さな「できる」を体感させてあげましょう。

母国語の言葉の世界を広げていき、視野の広い子に成長してほしいですね。

体験学習受付中！！ お気軽に問い合わせください。

対象者：0歳～小学6年生



庄原の不確かな歴史ドラマ―永江の庄から現代まで

(最終回)

この町が送り出した人たち

「近代庄原」誕生に尽力した群像

音谷健郎

「庄原は県下で文化が高く、私たちは小学校で英語をやり」と、倉田百三が誇らしく語っています。晩年の昭和15（1940）年に出た自伝的エッセイ『光り合ういのち』でのことです。

庄原の「近代」は輝かしく出発しました。この町が「送り出した人たち」だけでなく、「送り出す」側の人たちの、言い知れぬ尽力に思いを馳せて

みます。百三が「小学校で英語をやり」と回顧するとき、「庄原英学校」の影響抜きには考えられません。その私立庄原英学校の開校は、明治18（1885）年です。「英学校」跡地の記念

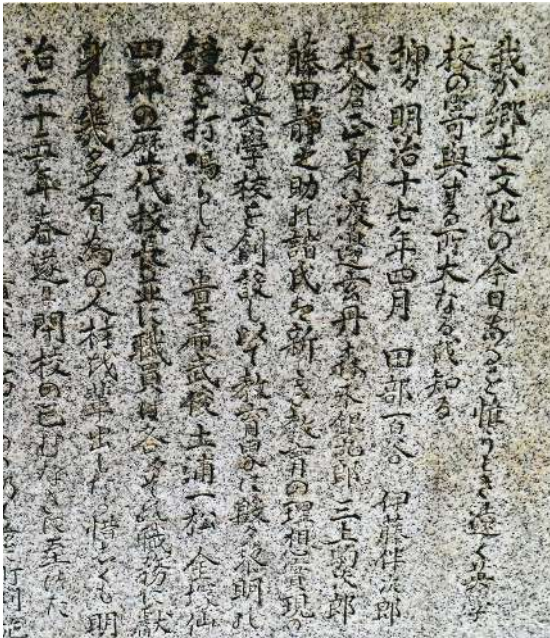
碑によると、発起人は田部百谷、伊藤次郎、板倉正身、渡辺玄丹、森永銀九郎、三上駒次郎、藤田勢之助の7人の名が刻まれています。いずれも旧家といわれる町の素封家で、有力者です。碑文には「新しき教育の理想実現のために創設」と、理想に燃えた門出です。

この英学校の開校には、前史があります。創設者世代の縁者と思われる伊藤薫三、亀助、馬吉兄弟、田部房次郎、森田英郎たち5人が明治15、16（1882、3）年、蘭学に替わっ

て欧米文化の窓となった「英学」を学ぶため、上京し福沢諭吉の慶應義塾に入っていたのです。こうした慶應義塾への入門は、明治31（1898）年までに計18人に及んでいるのです。「近代化」熱とでも云うのでしょうか。開校に際しては、慶應義塾の卒業生が多数教師として派遣されてきています。諭吉の方針でした。

資金面では、寄付の他に有力者の製糸工場経営や小作地の収益を当てるといふ資金作りは、いかにも諭吉の経済論にかなっていません。が、それがもつて、紡績不況などによる資金難で8年後の明治25（1892）年、あえなくの閉校する羽目になりました。日清戦争前夜のことで

と。ところで庄原は、英学一辺倒だった



記念碑「英学校社」の碑文に刻まれた創設宣言と伊藤薫三らの名前



移築して今に残る英学校の学舎の一部（庄原市本町の田部邸で）



明治9年の福沢諭吉（岩波文庫「文明論之概略」より）



庄原市三日市に現存する格致高校の現在
(正門から写す)



格致学院の校舎新築のころの教師陣。
中央に座した人が小田源吉院長
(『庄原市の歴史 通史編』から)

たわけではありません。英学校から見晴らせる隣の三日市の丘の上に、欧化を嫌う教師小田源吉が私財を投げ打って、「格致学院」の漢学塾を開校しています。

といっても、こちらは平坦ではありませんでした。『庄原市史 通史編』によると、自家のタンスに黒板を掛けた学塾を開いたのは、英学校が閉校して5年後の明治30(1898)

年です。入学者は11人だけでした。やがてこの小田の反権力の姿勢に惹かれて次第に生徒が増えました。だが、小田は私立学校令による学校認可を得るために苦勞をします。やっと認可されても三年制だったので、正規の中学卒業資格を与えることができないのです。小田は一計を巡らし、広島の広陵中学校や吉舎の日彰中学校へ編入する道を開きました。「資格は広陵で貰え、人物は私が造る」と胸を張ってみせたのです。

学舎にあてたのです。生徒は50人を超え、「学院」の体裁を整えます。卒業生の1人は、過去をふり返って、「生徒は正式の学校では学び得ない貧寒生であり、有産階級の子弟に對して一種の敵対心を抱き、早く何とか出世の緒を握ろうという希望を抱き真剣に修学し、唯一人の小田先生を中心に師事し」團結した、と語っています。資金に窮して自宅を売却してまで続けた小田は大正7(1918)年、51歳で病死しますが、格致学院は続きました。

明治43(1910)年には、卒業生らから資金を募り、庄原・三日市の今の庄原格致高校の地に、小学校の旧校舎を買い取り、「格致学院」の

く経ち、総計は、ゆうに一万人を超えているのではないだろうか。ここに、時代の先端を進んだものの、時代に翻弄され、つぶれた「英学校」と、ローカルの地味な底力をみせた「格致学院」の違いをみる思いがします。

なお、「庄原が送り出した人たち」にも触れておきます。「英学校」を経て慶應義塾に学び、法学部教授を続けつつ「時事新報」主幹、社主となった板倉卓造は生涯、庄原に帰ることはなかったと云います。隣町の上下町出身で、受験英語で広く青年に知られた岡田実麿も卒業生。実妹で「蒲団」のモデルとなった美知代は親戚筋を頼って庄原・川手に住み、生涯を全うしました。三菱重工初代社長の藤井深造は新庄町出身。

大正生まれですが、総領町出身の山口信夫は旭化成会長となり、日本商工会議所会頭として幅広く活躍しますが多忙で、庄原への帰郷は稀だったようです。

民俗学では、『奥備後の民俗』を残した山田次三は峰田町出身。「歩く民俗学者」宮本常一から注目されていたのですが、先の戦争に狩り出され病死したのが惜しまれます。

「植物画とは何か
—日本の植物図譜を中心に—」(12)

イワヤシダは 1898(明治31)年 8 月 24 日に愛媛県上浮穴郡岩屋山で採集されたので、イワヤシダと名づけられた。牧野は「新撰日本植物圖説第 1 巻第 10 集第 46 図版甲でイワヤシダの全形を標本の写真で掲載し、第 46 図版乙としてイワヤシダの部分図を描き図版とした。各部分図のいずれもケント紙へ筆で描いている。小葉の葉脈を精密に描いた部分図と孢子囊群をつけた小葉を左上に置き、右上には孢子囊群をつけた葉の一部の拡大図、右中央から下部へ孢子囊群が裂けて孢子囊が飛び出す状況の拡大図を配置し、中央に孢子囊と孢子、その左へ主脈の断面図、下部左から右上に向けて孢子囊群の断面と皮膜をきわめて正確に描いた部分図を配置し、空間を無駄なく使い、バランスのとれた原図となっている(図 1)。

牧野の植物図の特徴は分類的に重要な孢子囊群や鱗片、葉脈など細部にわたって正確にとらえて多数の解剖図で構成されているといわれているが、イワヤシダと先に挙げたムジナモはその典型ともいえるべき植物図である。これは牧野富太郎の並はずれた観察眼の鋭さと、それを表現する描写力の確かさ、そして、曖昧さをゆるさない性格によるものと考えられる。特に葉の裏に盛り上がった形の孢子囊群は他のシダ類とは際立った特徴で、それを正確にとらえて描いている点や下部の孢子囊群の描き方はきわめて斬新である。

イワヤシダは本州・四国・九州に分布する夏緑性のシダ植物で、広島県では神石町下帝釈、加計町温井、吉和村中津谷から記録されているきわめて稀なシダ植物である。イワヤシダは牧野日本植物圖鑑初版(1940)と、牧野日本植物圖鑑改訂版(1949)には掲載されていないが、牧野富太郎没後に出版された牧野新日本植物圖鑑(1961)には掲載されている。しかし、その図はきわめて粗雑であり、それは新撰日本圖説第 1 巻第 10 集第 40 図版乙によって作成されたものではないといえる。

カラクサシダの原図は、中央に全形図を置き、左上に根茎の毛の拡大図、その下に根茎の断面図と葉柄の断面図、上部中央へ孢子囊群をつけていない葉、右上に孢子囊群をつけた葉の拡大図、その下に孢子囊群をつけた葉片の拡大図、右下へ孢子囊群をつけた葉片の断面の拡大図、下部中央へ根茎断面の拡大図をバランスよく配置し、空間を巧みに活用している。右上の孢子囊群をつけた葉の拡大図といい、孢子囊群をつけた葉片といい、立体感があり、しかも葉の先端にある毛も正確で、丹念に描かれている(図 2)。

カラクサシダは、葉の長さが 5 cm 足らずの小さいシダであるから、孢子囊群をつけていない葉やつけている葉などはルーペを用いて観察してその特徴をとらえ、卓越した描写力で描いたことである。それに対して断面図は、それぞれの切片を作り、顕微鏡で調べて作図したものと考えられる。ツェンベリーの「Flora Japonica」には、いくつものシダ類の図、例えばオオカグマ *Blechnum japonicum* L.(現在の学名は *Woodwardia japonica*(L.)) などがあるが、オオカグマのように大型のシダは一部だけが描かれ、全形図はあっても部分図は全くなく、全形図にしても描画力は、牧野の描いた全形図にはるかに及ばない。ツェンベリーの場合、乾燥した標本のみ relied したせいもあるが、牧野富太郎には植物分類学者としての鋭い眼があったことに起因すると考えられる。

カラクサシダは暖帯上部から温帯へかけての山地に自生し、夏に葉を落す冬緑性のシダである。庄原市比和町吾妻山ではサワグルミ林内の小溪流

著者紹介…一九三一年、比婆郡(現・庄原市)比和町に生まれる。農学博士(九州大学)。昆虫や動植物などの自然科学、郷土史や民俗学を含めた博物学の研究者で、著書は多岐にわたる。

※中村さんの回想録的なコンセプトで編纂された「虫と草木と人びと」(シンセイアート出版)から、著者の許可を得て、その一部を抜粋、転載しています。

間の小礫上のコケの間やブナの巨木の幹に茂るコケ類の中に混って生育している。

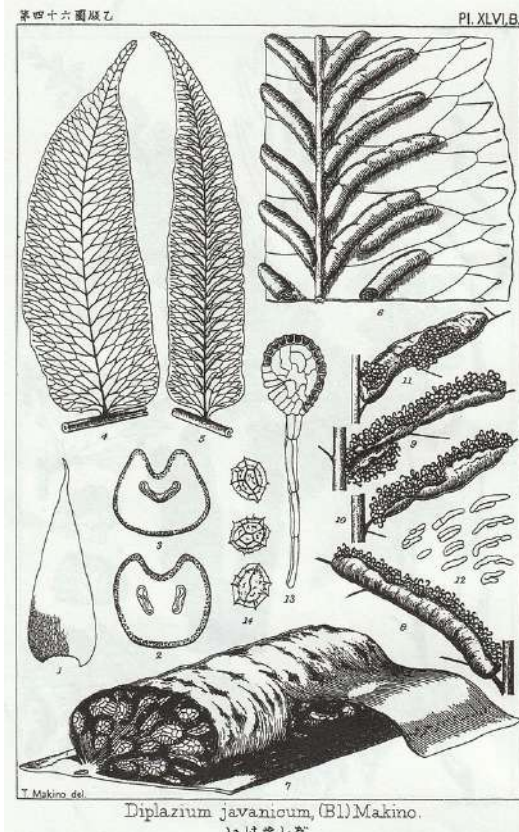


図1 イワヤシダ

(新撰日本植物圖説第1巻第10集第46図版乙による)

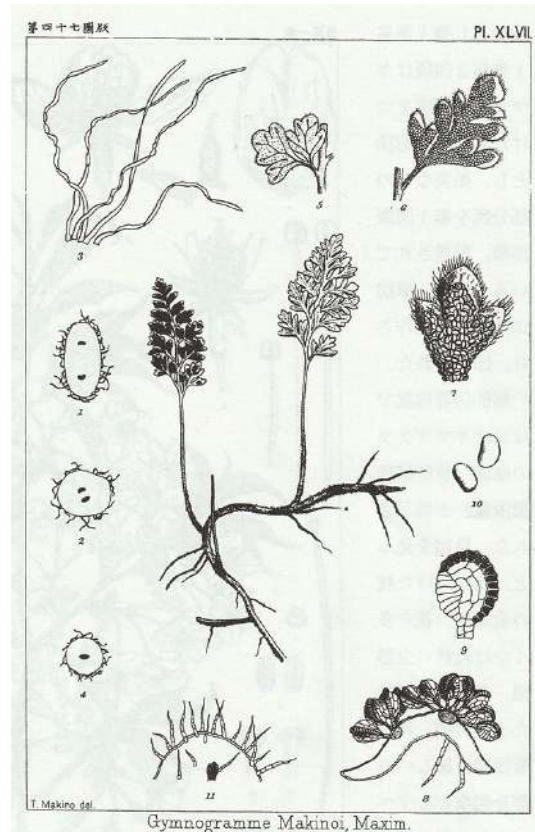


図2 カラクサシダ

(新撰日本植物圖説第1巻第10集第47図版による)



「つれづれ歌談」③〇

松岡初枝

一年の終りが近づくと、その年がどんな一年だったか、人の死や出来事を、静かに偲んでみる人も多いと思います。思い慕う気持ちは、現代人より古代人の心の中では、大きなものであったのではないのでしょうか。映像や音声で残せることが無い時代でしたから。
・人はよし思ひ止むとも玉かづら影に見えつつ忘れえぬかも

倭太后(やまとのたいごう)
・わが背子と二人見ませば幾許(いくばく)かこの降る雪の嬉しからまし
光明皇后

片や天智の後、片や聖武の後、夫を亡くした二人は、それぞれに嘆き偲ぶ歌を残しました。

・いざ子ども早く日本(やまと)へ大伴の御津(みつ)の浜松待ち恋ひぬらむ
山上憶良

「さあ部下の若者たちよ、みんな早く日本へ帰ろう」、遣唐使として若者たちと唐へ渡った憶良。もうすぐ帰国という時の宴席で詠んだ歌ですが、遠い故郷を偲びつつ勉強に励んだ仲間と共に帰るぞ。松原の美しい故国日本へ。憶良は団長のような役でもあり、一人たりとも欠けずに帰る、心意気一杯の歌です。

・天の原ふりさけ見れば春日(かすが)なる三笠の山に出でし月かも
安倍仲麿

夜空をあおいで見れば、あの春日の地の三笠山に出た月と同じ、美しい月が輝いている。仲麿は遣唐使として唐に渡りましたが、帰りの船の難破で再び唐へ。そのまま彼の地で一生を終えた人です。仲麿は優秀な文官で、唐の役人は彼を日本へ帰したくない。現地妻を持たせ政治の中枢にまで入れます。帰りたいが帰れない。仲麿の葛藤はいかばかりだったでしょう。月を見て故国を偲ぶ仲麿。その心情は月だけが知っているのかもしれない。

一気に脱力した。動画を撮っていたスマホを落としてしまい、壊してしまったのだ。河原の石に衝突して、液晶が割れている。買い替えるしかないかと、貯金の残高を思い浮かべて嘆息した。

バイト仲間のケンジと、何か金になる仕事はないかと話して、ユーチューブなら稼げるのではないかと安易に相談がまとまった。ケンジがパソコンのプログラマーの専門学校を出て、いや中退していて、動画の編集なら簡単ですよと安請け合いました。

お互いサバイバル番組が好きだったこともあって、無人島生活の配信を計画した。しかし、調べてみると無人島に上陸するには所有者の許可や、島が所属する地方自治体の許可を得ることが必要であり、渡船費用も高額になりそうだ。「おれ、船に弱いんですよ」のケンジの言葉が決め手で断念した。

海が駄目なら、陸の孤島にしようというところで、ケンジの親戚のツテで、中国山地の山深い場所にある半壊した古民家を無償で借りて、「令和開拓団」チャンネルがスタートした。二人で“入植”したはずが、「おれ、蛇や虫が駄目なんですよ」とケン

ンジが早々にリタイアした。家の中にいたでかい青大将に悲鳴を上げて、ヤモリやジョロウグモを見て青くなった。

(そろそろ引き上げるか)

最初はキャンプをしているように楽しかったが、すべてが手仕事の山の暮らしは重労働で、そうした暮らしに疲れてきた。都会の便利な生活が恋しくなった。チャンネル登録数

初雪

現代御伽草子 ⑦⑤

あきふゆひこ
亜木冬彦

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

や再生回数も、似たような動画が多くて苦戦している。

(うん?)

ドアをたたく音がした。気軽に人が訪ねて来れる場所ではなかった。しばらくして、またドアをたたく音がした。薪を一本、手に握って、ドアの内側に立って声をかけた。

「わたしです。良夫です」

聞き覚えのある声に、カンヌキの

つつかえ棒を外して戸を開けた。背広姿の初老の男が立っていた。「出張で広島に来る用事があったんで、ちよつと寄ってみました」

唾然とした。ぶらりと立ち寄れる距離ではなかった。ローカル線乗り継いで、しかも駅に到着してからも、車がなければ山道を二時間以上も歩かねばならない場所だった。「電話をしても通じなかったものだから」

「さあ、食べてくれよ。キノコたっぷりの味噌ラーメンだ」

キノコはこの家に来る途中の山中で採ったものだという。いろんな種類のキノコが生えているのは知っていたが、毒キノコに当たるのが怖くて手が出せなかった。

(大丈夫なのか?)

義父の視線を感じて、おそろおそろの口に含んだ。

(うまい!)

キノコを煮込んだ鍋にインスタントの味噌ラーメンをぶちこんだだけなのだが、キノコのダシが出ているのか、うまみが凄い。ナメコ、ヒラタケ、サクラシメジ……、義父が名前を教えてくれたのだが、それぞれ

袋を掲げて笑った。

義理の父親に当たる人物だが、おとうさんと呼んだことは一度もなかった。幼い頃に両親が離婚して、ずっと母子家庭だった。おれが高校を卒業して家を出て、母親はしばらく

一人で暮らしていたが、五十歳を前にして再婚したのがこの男だった。お互いにバツ1同士の再婚だった。

母親が急に女になったような気がして抵抗を覚えたが、これで母親のことを気にせず好きなことができると解放感を覚えたのも確かだった。しかし、結婚生活は長くは続かなかった。乳がんを再発させた母親は、五年前に亡くなっていった。戸籍上はともかく、この男との関係はそれでなくなったと思っていた。



の食感や風味の違いが楽しめる。鍋の残り汁に、レトルトパックの白米を入れておじやにしたが、これがまた絶品だった。

デザートはアケビだ。種を包んだ半透明の果肉を口にほおぼると、バナナに砂糖を振りかけたような甘さが口いっぱい広がった。

「実家が開拓農家だったんだ。親父が復員兵でね。働く場所がないから、政府の開拓団の募集に応募した。原野の木を切り倒して、切り株を掘り起こしてと、機械なんかない時代だから大変だったそうさ。せつかく

作った田んぼも、水が溜まらないザル田でね」

炒ったドングリの実を齧りながら、ぼつりぼつりと身の上を話してくれる。甘さを抑えた栗のようで、香ばしくておいしい。マテバシイの実で、他のドングりは渋みが強くてアク抜きしなければ食べられないという。

「子供が農作業を手伝うのは当たり前だった。忙しい時は、仮病を使つてよく学校を休んでたよ。先生も事情がわかっていいるから何も言わない」

おいしそうにインスタントのコーヒーをすすった。義父は酒を飲まない。おれも付き合つて、コーヒーで我慢した。

「明くんの動画を見ていたら、無性に体を動かしたくなってね。準備もせずに押しかけてしまった……」

薪割りをしてもらった。錆びた斧の刃先を、瓦の破片で丁寧に研いだ。円を描くようにかかげた斧を振り下ろすと、丸木が真っ二つに両断された。腰の据わった打撃は安定していて、小柄な身体が大きく見えた。

「さて、風呂をわかすか」

嬉しそうな顔をして立ち上がった。この家の鉄製の五右衛門風呂を

見た義父は、懐かしいなと顔を輝かせた。

(積もりそうだな)

夕闇の空を見上げた。雪のつぶが大きくなっている。初雪だった。明日は、列車が不通になるかもしれない。ここは、雪国なのだ。

ホームにかすかな振動を感じた。列車が走る振動が、レールを伝ってくる。やがて、列車のライトが見えてきた。キハ120形ディーゼル機関車。一両車両のワンマンカーがホームに停車した。扉が開いて、カーキ色の防寒ジャンパーを着込んだ男が、大きなリュックを背負つて降りて来た。

「おとうさん！」

手を振つて声をかけた。年末年始を一緒に過ごす約束をしていた。ワラ細工を、みっちり仕込んでもらうつもりだった。ワラを足しながら両手をよじると、魔法のように縄がどんどん出来て行く。焚き付け用にもらっていたワラ束を使って、五右衛門風呂に入るときのワラ草履を簡単に作ってしまった。裸足だと釜の底が熱くて入れないのだ。

義父が破顔して握手した。ゴツゴツと逞しい手だった。

まつの古本屋さん どら書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元の絵葉書、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。






- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

月の満ち欠けと呼称

朔	上弦	望	下弦	晦
				
新月	三日月 (三日ころ)	八日月 (八日ころ)	十日あまりの日 (十一日ころ)	十三夜月 (十三日ころ)
		待宵月 (十四日ころ)	小望月 (十五日ころ)	満月 (十六日ころ)
		十六夜月 (十六日ころ)	立待月 (十七日ころ)	居待月 (十八日ころ)
		寝待月 (十九日ころ)	二十二夜月 (二十二日ころ)	二十三夜月 (二十三日ころ)
			二十八日ころ	つごもり (三十日ころ)

五月の名称について(2)

寝待ち月 旧暦で、各月の十九日目の夜に出る月。寝待ち・臥し待ち月ともいう。十五夜の頃は、おおよそ日没と前後して月が出るが、十九日頃には日没後四時間ぐらい経たないと月は出て来ない。そこで、月の出は寝て待つということになる。

更待ち月(ふけまちづき) 旧暦で各月の二十日目の夜に出る月。夜もふけてようやく出る月という意味。季節によって多少の誤差があるが、九時半から十時半頃に東の空に出る。

下弦・二十三日月 旧暦で、各月の二十二日目・二十三日目に出る月。この月は、真夜中頃に出て昼近くまで残っている。それで、この夜は古くから「二十三夜待ち」と、いわゆる月待ちの行事が行われて来た。月待ちの「待ち」は、現在では月の出るのを待つと解釈されているが、元々は月をマツル(祭る)と言う意味であった。

人がたくさん集まって(女性のみの講という場合が多かった)、供え物を備えて月の出るのを待ち、月を拝んで飲食を共にする、という行事である。毎月行われることは少なく、正月・五月・九月・十一月のみに行う地方が多かった。現在でも、祭りをする所が多い。

三十日月(みそかづき) 旧暦で、各月の三十日目に出る月。晦(つごもり)・晦日などともいう。月が太陽に近すぎると姿は見えない。晦は「月隠(つきごもり)」が変化したもので、月の光が隠れて見えなくなる頃の意。転じて晦は各月の最終日を指すようになった。農村では、「三十そば(つごもりそば)」といって、特に年末に蕎麦を食べるしきたりがあり、現在も引き継がれている。

有明月(ありあけづき) この月は、十六日以降に出る月の総称で、夜明けになってもまだ空に残っている月のこと。

夕月 夕方の月、夕方に見える月。また、夕方だけの月のある夜を夕月夜といった。

○秋以外の季節の月の呼び名
朧月(おぼろづき) 春の夜に霞んでボンヤリとして見える月。

初月 主に八月二〜六日頃の月を指す。極めて細かい月であり初々しい。

これから満ちてゆく高まる気持ちが込められている。

渾月(たんげつ) 水をたたえた淵に映る月のこと。

月天心(つきてんじん) 冬至の頃、月は空の真上に近いところを通って行くさま。中国・北宋時代の儒学者、邵康節(しょうこうせつ)の詩に由来している。

寒月冬の冴えきった空に浮かんだ月のことで、冷たく孤独なイメージをまとう。冬には寒三日月、寒満月などの言葉もある。

○月を表現し、関わる言葉
袖の月 別れ際に涙を流し、拭いた袖に月が映るほど濡れてしまった様子。

月の客 月見に出る客のこと。

鶴(かささぎ)の鏡 七夕の夜、鶴が天ノ川に翼を伸ばし、織姫と彦星を逢わせるといふ伝説からきている。

玉蟾(ぎよくせん) 蟾とはヒキガエルのことで、古来、月には三本足のヒキガエルが住んでいると信じられていたからだ。

月扇(げっせん) 扇が神聖なものと考えられていた名残で団扇をこう呼んだ。

月夜鳥(つきよがらす) 月夜に浮かれ出る人のことをいう。

海外旅行ツアー・コンダクター・エピソード⑬

飛行機あれこれ・「座席で成田離婚？」

滝のしぶきが顔に

山崎 允

まこと

40年前、金木犀漂う漓江下りに向かう中国広州空港でのこと。客に笑顔なんて見せないと評判の航空会社のキャビン・アテンダント（CA）が、搭乗口でうちわを渡してくれたのでびっくりした。お土産を先渡しするなんて、サービス精神に目覚めたのかと思った。

飛行機はまもなく上昇し、水平飛行になると機内で異変が生じた。熱くなってきた！すると、乗客の一人がそのうちわをパタパタとあおぎ始めた、それに従うようにみんながパタパタやり出したのだ。この飛行機はソ連製の主に兵員輸送用のアントノフ製だったので、冷房も暖房も設備されていない。

次に、CAが威張ったようなそぶり、金物の小さな皿らしきものを配りだした。そして、片手に金物のバケツとしゃもじを持って、バケツの中のアイスクリームを客に配り始めたのだ。牛やニワトリの給餌の光景を連想した。CAは笑顔もなく、た



だ淡々と餌やりを果たした。勿論、サンキューなどと言う乗客はいなかった。

ザンビア共和国からジンバブエ共和国にまたがる世界遺産ヴィクトリア・フォールズに向かうDC3型（ダグラス製）旅客機はジェットコース

ターに乗ったような心持ちだった。乗り心地なんて言うものではなく「びっくり箱」と言った方が当たっていた。とにかく上下左右に揺れに揺れた。昼食用に出されたボックス・ランチ（弁当）は左手で持っていた。右手が届かないくらいの揺れだった。

客室内マイクを借りて、「地表上の熱が上昇している高度に入っているための現象であって、飛行には差し支えありません。ブランコに乗ったつもりで気を楽にしてい下さい」とアナウンスをしたが、本当は怖かった。当時の航空機に関係する人たちの用語で「空飛ぶ電気バリカン」と言われていたのを思い出した。

ジャンボ機のエコノミー座席は横一列が窓側から3席、通路、4席、通路3席の配置だった。大安吉日の翌日のフライトであった座席にまつわる悲劇。ホノルル行き航空会社のカウンターに行つて渡された座席券の番号を見ると、隣り合わせでなく前後に分かれた番号になっている。新婚旅行の「晴の門出」にケチが付いたと新婚さんが鬼の形相で、「どうして私たちがこんなことになるの」と金切り声を上げた。

驚いたのは新郎だった。一瞬のうちにハネムーンの甘い気分は、高度

1万フィートから冷ややかな目が並ぶ地上にたたきつけられたのだ。楽しいはずのホノルルまでの8時間のフライトも、彼は無言のまま。二人は、成田に帰って来て離婚した。当時、「成田離婚」という言葉が、新聞紙上を賑わしていた。あの座席のトラブルがなかったら、二人は離婚しなかった？

ハンググライダーにエンジンとプロペラを載せたもので、前席にパイロット、後席に乗客を乗せる簡単な飛行機（？）がある。私は、外務省外郭団体JICA（国際協力機構、日本の政府開発援助の実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている）からザンビア共和国に派遣され、この簡易飛行機で、リビングストンのヴィクトリア・フォールズ（瀑布）の上空を約15分間飛行したことがある。

科学繊維で作られた翼の先端にカメラが取り付けられ、飛行中の様子の写真（上掲写真）が、降りた時点でお土産として渡してくれる。滝つぼから登る水煙のしぶきを顔に受け、ヘルメットのひもが風を切つて「ビュー」という音を耳にしながら、足元に広がる幅1700メートルの壮大な光景を楽しんだ。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

廃線に心ゆくまで雪積る

近藤 昌平

冬雲や百三育てし沼鏡

富久光

砂利道にひとひら赤き落葉かな

片岡 正人

とりどりに人の心と菊の花

隆愚

櫛田や備後の里に生れて住む

大槇 三代子

さびしさに星ながめたる夜寒かな

寺内 龍二

墓碑銘は「空」の一字暮れの秋

赤川 冬人

赤き実をくわえ彼方へ飛び帰る

松岡 初枝

名知らぬ鳥も家族持つらむ

投稿&寄稿

候のことば
こつごもり

「小晦日」

隆愚

十二月三十日は小晦日、三十一日は大晦日（おおつごもり）という呼び方がありますが、つごもりとは月が隠れる、月籠りのこと。月齢で数

える太陰暦では毎月末日は新月の頃で、つごもりにあたります。ちなみに二十九日の九は「苦」を連想させるため、大掃除は二十八日までに済ませる事とされてきました。正月の準備を整えて、明日は大晦日で、さて、とちよつと空いた時間ができる日も欲しいですね。一年を振り返りつつ、ぶらりと散歩もいい

ものです。

今年の冬至は十二月二十二日ですが、冬至には「ん」のつくものを食べると運氣があがるといわれていいます。かぼちゃは南瓜と書いて「なんきん」ともいわれます。本来は夏が旬ですが、保存がきくので、この時期に食べられてきました。

冬至にかぼちゃを食べると中風にならない、風邪をひかないといわれます。実際、栄養価が高く、肌や粘液を丈夫にし、抵抗力をつけてくれるそうです。

「吉備の国」

赤川 仁洋

芸備線ストロールで、先月号から県境を越えて、岡山県に入った。備後の国から備中の国に入ったわけだが、備後や備中という地名の由来は何だろうか？ 郷土史に詳しい人には常識なのだろうが、少し調べてみた。かつて古代日本には、吉備の国という有力な地方国家が存在した。畿内の大和、九州の筑紫、山陰の出雲と並んで、四大王国の一角だったという。その領域は広く、現在の岡山県全域と広島県東部、香川県島嶼部（とうしょぶ、島は大きな島、嶼は小さな島の意味）および兵庫県西部

にまたがっていて、備州とも呼ばれていた。

その吉備の国は、持統天皇3年（689年）に、備前国、備中国、備後国に分割、その二十数年後には備前国から美作（みまさか）国を分立。それだけ吉備国の勢力を大和朝廷が警戒していたと推察される。ちなみに畿内の朝廷に近い方から備前、備中、備後と命名された。これは同じように3分割された越国（こしのくに）の越前、越中、越後と同じである。芸備線は備中入りしたが、かつては同じ吉備国だったと考えれば、共感や愛着が増してくる。



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：12月17日(土) 13:30～15:30

テーマ：「むかし話の裏話にせまる。」

～ちょっと気になる庄原のむかし話～

講師：岡野茂氏（絵本作家）

会場：交通交流館（備後庄原駅隣接）

参加費：500円（学生200円、お茶菓子込み）

申込み＆問合せ：080-3631-9125（柳井妙子）



水彩画・羊毛フェルトで描く庄原市 —上田智暢と倉岡聖子…異色の融合作品展—

水彩画家として多彩な活動をする上田智暢氏と羊毛フェルト作家のくららおばさんがコラボして描くふるさとの情景。

日時：令和5年1月8日(日)～10日(火)
10:00～15:00

会場：市民ギャラリーアート多愛夢
(庄原市西本町2丁-21)

入場は無料です！



「旧暦カレンダー」(販売価格：1,650円)

- ・日本の自然に根差した暦(こよみ)です。
- ・太陽暦でも太陰暦でもない、「太陰太陽暦」です。
- ・新暦(太陽暦)も併記しているので便利です。
- ・季節の行事や呼び名の意味が、より深く理解できます。
- ・自然災害の予測ができます。

どら書房にて令和5年度版 好評販売中！

※本誌特別連載の古川行洋氏推奨。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail:touzin@nifty.com

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

うと鬼が笑う？

◇いよいよ12月、最後の月ですね。どら書房は、定休日の月・火曜日以外は年末年始も通常営業です。今回は1月2日が月曜日なので、年末も元旦もやっていきます。暇な時間もまた楽し。来年のことを言

編集後記

◇今回、備後のことを調べてみて、地名の由来がわかりました。広島県の備後地方に吉備団子は残っていませんが、吉備津神社は各地に存在します。芸備線では、高駅の近くにあり

第255回

くんちいち

しょうばら九日市

〈出店一覧〉

- *文屋
- *お福
- *郷屋
- *工房アム
- *ぬくもり
- *ちくちくはうす玉手箱
- *かぐや姫
- *和み屋
- *くららおばさん

- *農楽会
- *二八そば加工所
- *さだっさ
- *健康企画
- *17KITCHEN
- *アーミッシュ
- *ふくふく牧場
- *満じいの手打ち蕎麦
- *津田屋

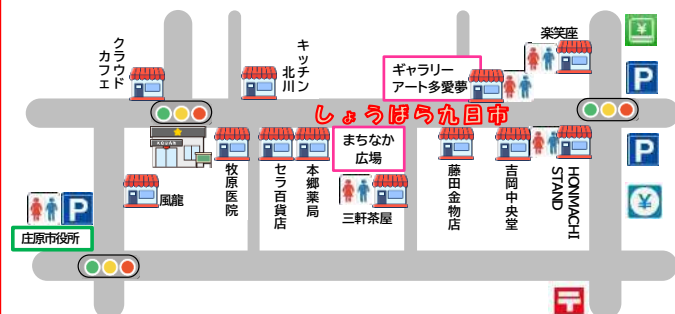
- *克國水産
- *久代水産
- *くんえん工房 香豚
- *どんぐりーず
- *里山キッチンほっぺ
- *佐藤園芸
- *田崎屋
- *宮川屋



2022年
12月9日(金)
9:00~13:00

TOPICS

- ★市民ギャラリー「アート多愛夢」
12月8日(木)~12月10日(土)10時~15時
わら細工作品展
高齢者手作り作品展
- ★楽笑座「うた声喫茶」開催 13:30~15:00
- ★どら書房→休憩所あります!!
- ★風龍→九日市スペシャルで餃子200円!
- ★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き
- ★カフェクラウド→タピオカドリンク100円引き
九日市特製ピタサンド600円



*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,000円~
 九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
 〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽笑座内)

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

